

「幼子イエスを献げる」

2015年04月21日

ルカによる福音書 2章22節～24節。さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。

「モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎた」とある。旧約聖書レビ記 12章2節～5節には「イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。妊娠して男児を出産したとき、産婦は月経による汚れの日数と同じ七日間汚れている。八日目にはその子の包皮に割礼を施す。産婦は出血の汚れが清まるのに必要な三十三日の間、家にとどまる。その清めの期間が完了するまでは、聖なる物に触れたり、聖所にもうでたりしてはならない。女児を出産したとき、産婦は月経による汚れの場合に準じて、十四日間汚れている。産婦は出血の汚れが清まるのに必要な六十六日の間、家にとどまる」と規定されている。男の子を産んだ場合、汚れの日数は7日間で、8日目に割礼を施し、命名する。そして出血の汚れが清まるのに必要な日数は33日である。女の子を産んだ場合は、汚れの日数は66日と倍になっている。聖書では、女性の汚れが清められるためには倍の日数がかかると女性差別が歴然としている。

イエスの場合、清めの期間が過ぎるのは33日である。日本では、清めとは関係ないが、百日目の「宮参り」という習わしがある。33日目以降の「宮もうで」はいささか早い気もするが、生まれて何日目に行ったのであろうか。ヨセフとマリアは幼子イエスを献げるためにエルサレム神殿に連れて行った。律法に「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と規定されているからである。この規定は民数記3章13節に「すべての初子はわたしのものだからである。エジプトの国ですべての初子を打ったとき、わたしはイスラエルの初子を人間から家畜に至るまでことごとく聖別して、わたしのものとした。わたしは主である」とある。マリアにとって初子のイエスは神のものとして聖別される。

この時の献げ物も、レビ記12章6節～8節に規定されている。「男児もしくは女児を出産した産婦の清めの期間が完了したならば、産婦は一歳の雄羊一匹を焼き尽くす献げ物とし、家鳩または山鳩一羽を贖罪の献げ物として臨在の幕屋の入り口に携えて行き、祭司に渡す。祭司がそれを主の御前にささげて、産婦のために贖いの儀式を行うと、彼女は出血の汚れから清められる。(中略)なお産婦が貧しくて小羊に手が届かない場合は、二羽の山鳩または二羽の家鳩を携えて行き、一羽を焼き尽くす献げ物とし、もう一羽を贖罪の献げ物とする。祭司が産婦のために贖いの儀式を行うと、彼女は清められる。」ヨセフ、マリアは貧しくて、小羊に手が届かなかったので、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽を献げた。貧しくとも、敬虔な夫婦の姿が描かれている。

マリアは幼子イエスを神に献げ、神から託された子としてイエスを育てたのである。ここに、養育に関する大事なことがあるのではないかと。与えられた子どもは親のものではなく、神から授かったものである。この認識が、養育の責任は当然負うが、尊重すべき人格を持つ子どもとして、養育する姿勢を生み出す。最近の子ども虐待のニュースを聞くと心に心が痛む。幼子イエスを献げたマリアの信仰を思う。